

ボランティア OSAKA



第7回
おおさかボランティア
フェスティバル
記念特集号



第15号

'98/AUTUMN

●発行●

(福)大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティアセンター

特集

第7回 おおさかボランティアフェスティバル記念
ボランティアの「元気」と「パワー」、
そして「創造力」

Welcome!

第7回

おおさかボランティアフェスティバル

「楽しさとやさしさが、ひとつになって花ひらく」

日 時 平成10年11月4日(水) 13:00~16:00

会 場 大阪府立青少年会館(文化ホール、プラネットホール、本館会議室)

活動交流会

13:00~15:30／於：本館会議室

①食事サービスボランティア交流会（2階第5会議室）

キリスト教ミード社会館・岡本千秋館長の「食事サービスのこれから」と題した基調講演と、大阪北生協コープふれあい食事の会・豊中、門真市食生活改善推進協議会からの活動事例発表および意見交換。

②移送サービスボランティア交流会（2階第1会議室）

移動サービス市民活動全国ネットワークの伊藤正章・事務局長の講演と、グループ「豊中アッサー」（豊中市社会福祉協議会登録ボランティア）の活動発表およびディスカッション。

③学生ボランティア交流会（2階特別会議室）

府内でさまざまなボランティア活動をしている学生が集まって、ワイワイ楽しめることをモットーに交流。活動紹介のビデオも上映。

④在宅福祉・NPO団体交流会（4階第7会議室）

大阪府立大学の牧里毎治先生（社会福祉学部教授）の講演とディスカッション。話題提供は、真嶋克成（大阪NPOセンター事務局長）、川浪スエ子（高槻ライフケア協会代表）の両氏。助言者は、牧里先生、および大阪府ボランティアセンター所長の森茂輝。

⑤こどもと教育ボランティア交流会（4階第8会議室）

「生涯教育・家庭の価値と役割～少年たちが荒れる背景を探る～」をテーマに、実践報告と講演（講師は財団法人野村生涯教育センターより）と意見交流会。

⑥福祉マップづくり交流会（2階第6会議室）

大阪大学工学部の飯田克弘先生（土木工学科講師）の講演と、久保添晋明氏をコーディネーターにしたディスカッション。大阪教育大学付属天王寺中学、交野市ボランティアグループ連絡会、大阪脊髄損傷者協会、日本ライトハウス点字技術センター、関西弱視盲問題研究会などから話題提供をいただきます。また会場内には、各種の福祉マップを展示。

主 催 大阪ボランティア推進府民会議

後 援 大阪府、大阪府教育委員会、「おおさか ふれ愛 夢づくり」推進委員会、大阪21世紀協会、朝日新聞大阪厚生文化事業団、毎日新聞大阪社会事業団、産経新聞大阪新聞厚生文化事業団、読売光と愛の事業団、NHK厚生文化事業団近畿支局

協 賛 A I U 保険株式会社、大阪府遊技業協同組合、関西シルバーサービス協会、四天王寺福祉事業団、島本保険事務所、住友海上火災保険株式会社、大同生命社会貢献の会、株式会社竹中工務店大阪本店、株式会社中村塗装店、日産労連、ピィポスト、松下電器産業株式会社、株式会社レストラン門

芸能フェスティバル

13:00~16:00／於：プラネットホール

- | | |
|------------|-----------------|
| ・人形劇 | ザツツ（箕面市） |
| ・大正琴 | ひまわり（八尾市） |
| ・マジック | ア・ラマ（堺市） |
| ・ピューラーメドレー | 関西「ことぶき会」（北区） |
| ・歌とギター | マナ（柏原市） |
| ・紙芝居 | グループ「あめんぼ」（吹田市） |
| ・歌と踊りと手品 | 大阪睦会（寝屋川市） |
| ・ナツメロの歌 | 京阪ナツメロ愛好会（寝屋川市） |
| ・大正琴 | あゆみ（茨木市） |
| ・歌謡曲 | ひまわり歌謡会（寝屋川市） |
| ・軽音楽 | 東大阪軽音楽協会（東大阪市） |

総合司会 蜂須賀隆子・高岡紀美子「わろてん会」（門真市）

展示コーナー

13:00~16:00／於：本館2階第3会議室

府内のボランティアグループの写真パネル展示。自助具および手作りおもちゃ等の作品も展示します。どなた様も、ぜひご覧下さい。

映画

14:20~16:00／於：文化ホール

「友情」

—— 白血病と闘う中学生の友情の物語



第7回 おおさかボランティアフェスティバル記念 ボランティアの「元気」と 「パワー」、そして「創造力」

私たちの社会に、すっかり定着した感のあるボランティア。大阪においても、福祉の分野で、環境の分野で、まちづくりの分野で、そして文化・芸術の分野で…その他、実にさまざまな分野で多くの人たちが活動しています。

「やむにやまれず」「好きだから」「楽しいから」…ボランティアに取り組む人たちの動機は、人それぞれ。でも彼らに共通しているのは、それぞれの「夢の実現」と、とにかく「おおさかの、街と人が好きだから」。

今回は、大阪で活躍する「元気印」のボランティアグループ11団体を紹介してみましょう。

道に生え放題の雑草、道端に捨てられた空き缶や煙草の吸い殻などのゴミを、自分たちでき得る限りのことをしてなくし、花のあふれる美しい街にしたい。そんな思いで平成3年「コスマス会」は結成されました。今では門真市立南小学校の校庭の一角落をおもな活動場所として、季節ごとの美しい花を咲かせています。

メンバーはほとんどが門真団地に住む主婦ら。団地の目の前にある南小学校の道路沿いに、長い間、草や茅が背丈よりも大きく伸びたまま放置されており、それを何とかしたいと思つたのが、同会の活動のきっかけ。民生委員である丸山幸恵さんは、そこに自分の好きなコスマスを咲かせたいと思い立ち、さっそく学校に交渉したといいます。「できるかどうかわからなかつたのですが、校長に熱心に直談判しました」と当時を振り返ります。3カ月後に学校からOKの返事があり、同時に花づくりが生きがいにもなればと、近所の高齢者に声をかけ、さっそく草ひきがはじまりました。

この会は、規約もなく自由参加。毎週土曜日に来られる人が集まって花を育てようという気軽なもの。丸山さんは「この気楽さが長続きの秘訣ではな

いでしょうか。ボランティア活動というよりも、なんだか友だちの家にラツと遊びに行くようなものかしら」と笑います。今では花を植える範囲も学校の校庭から四方に広がって、団地のまわりも花でいっぱい。「最初はしつこい雑草を抜くためだけに毎週来ていた感じ。だけど少しずつ花が増えてゆく嬉しさは、そのたいへんさを吹き飛ばしてくれる。今は私にとって欠かせない楽しみのひとつです」と、花に詳し

◆コスマス会（門真市）
**自分の住む街をキレイにしたい…
花づくりに思いをこめて**



いメンバーの池澤ひささん

(79) は話します。

学校側の評判もよく、

「こんなにきれいにして
もらつて本当に助かって
います。今では毎年新

入生のクラス写真はここ
で撮影。子どもたちも昼

休みに見に来ているよう
ですよ。それに最年長の白
石さんには手づくりの雑巾や

パン立てを、200個以上もブ
レゼントしてもらつており、彼女のバ

イタリティには本当に驚かされます」

と南小学校教頭の城 全氏。白石満さ

子さん(86)は「今から嫁にいこうと
思つているの(笑)」とじつ
に茶目っ氣たっぷり。熱
心に草ひきをしていま
した。



思つているの(笑)』とじつ
に茶目っ氣たっぷり。熱
心に草ひきをしていま
した。

しかし花壇横の道
路はゴミがあいかわ
らず多く、見かねた

メンバーの峯川フミ
コさん(78)は「少し

でもゴミを捨てる手が
止まつてくれれば」とい

う思いをこめて、毎早朝欠か
さず掃除をしています。

『道行く人が、この花をみて心和んで
くれればそれがいちばんうれしい。ま
た来年の春にたくさんの美しい花が育
つように、これからも畑づくりに精を
出したい』と丸山さんは今日も花壇に
向かいます。

青少年健全育成、国際交流などを 目的にサッカー大会を開催

◆和泉中央ライオンズクラブ(和泉市)

9月23日、「'98和泉市民サッカーフ
エスティバル・国際フットサル大会」

が、和泉市立光明池緑地運動施設グラ
ウンドで開催されました。大会には和
泉市民のチームを中心に、在日の韓
国・朝鮮人やその他の国々のチームを
含め144チームが競技に参加。試合

は1チーム5人のフットサル(ミニサ
ッカー)形式で行われました。

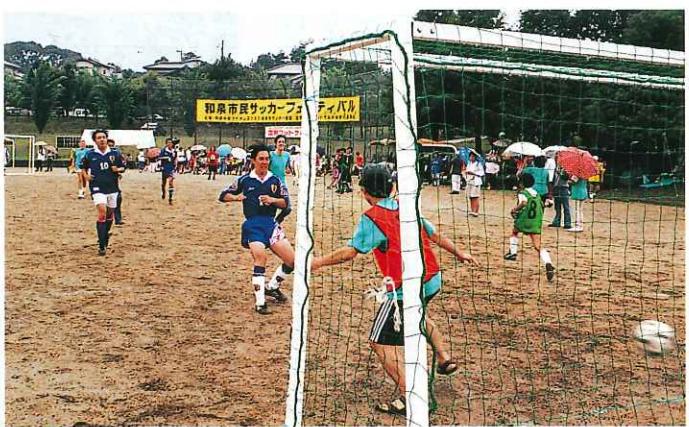
ホイッスルが鳴ると同時に、一齊に
子どもたちの黄色い声援がグラウンド
にひびきわたり、選手たちも気合い十
分。あいにくの雨のなか、みんなどろ
まみれになりながらも、ボールに向か
つてまつしげらう。

この大会は、和泉中央ライオンズクラ
ブと和泉市サッカー連盟との共同主
催で、日本と韓国が手を結ぶ2002
年のワールドカップを記念して行なわ
れたもの。開催まで、毎年ムードを盛
り上げていこうと、2001年まで4
回の開催を予定しています。

これまでも和泉中央ライオンズクラ
ブでは、国際交流を目的に、青少年の
海外派遣の実施や福祉のボランティア
活動などを積極的に行っており、
今回も福祉や環境への理解を深めるた
めのコーナーを設置。会長の脇田健一
さんは「スポーツは、若い人や健常者
だけのものではなく、スポーツを愛す

る人であれば誰でも楽しめるもの。グ
ラウンドで年齢や国籍、身体のハンデ
ickeyアップなどを問わず、コミュニケ
ーションを楽しんでもらえれば…と願
つて開催したものだ」と話します。

試合の行われているコートのまわり
では、スタンプラリーとしてさまざま
な催しが開催。空き缶を利用したゲ
ームや、サッカーボールをキックして、
9枚のパネルを何枚落とせるかを競う
ゲーム、そしてハンドダイキャップ体験
コーナーとして、視覚障害者用の卓球
を体験したり、アイマスクを着用した
点字ブロッカの歩行体験なども行われ
ました。他にもバザーが催され、その
収益金は本大会の運営にも参画してい
る、視覚障害者団体の活動助成金とし
て寄付されることになっています。





「手品」を 生涯の生きがいに

◆西宮アマチュア奇術クラブ

また、すべての人に楽しんでもらいたいと、お楽しみ抽選会も実施。特賞には2泊3日の韓国旅行、その他14等まで豪華な賞品が用意され、大会を盛り上げるひとつとなっていました。

「雨の中、これだけ大勢の人たちが集まってくれて本当にうれしい。失われがちな人のふれあいをテーマに、これからもボランティア活動を通じて社会貢献に努めたい。もちろん2002年のワールドカップでは、当クラブのメンバーも積極的にボランティア活動に参加することを考えています」と脇田会長は抱負を語ってくれました。



われました。

今回出張サービスとして手品を披露したのは「西宮アマチュア奇術クラブ」の会長であり、現役の税理士でもある矢島照一さん（78）。「私がマジックをはじめたのは45歳のとき。無芸だったもので、宴会などで披露できる芸を身につけようとしたのです。今ではレパートリーも50種類ほど増えました」と話します。税理士という仕事がら毎日が数字とのにらめっこ。それに疲れると気分を切り換え、手品の練習をするそうです。「仕事がどちらかといえば地味なだけに、手品をするときは思いつきり派手にしたい（笑）」と矢島さん。

この日は、奥さんの敏子さん（72）がアシスタンントとして参加。大きな拍手で迎えられたふたり

は、プロ顔負けの堂々たるものでした。

観客が見つめるなか、マジシャンが手に持っていたティッシュペーパーは、いつの間にか跡形もなくなり、そのかわりにまるでシャワーのように紙ティッシュが…。いきなりの大きなパフォーマンスに、観客から大歓声とどよめきがあがり、不思議そうに隣の人と顔を見合せます。

9月14日敬老の日にちなみ、てらもと総合福祉センターで開かれた敬老会。

そのイベントのひとつとして「マジックショー」が、センターの入所者とデイサービス利用者やその家族を含め総勢200人が参加するなか、盛大に行



奇術クラブは、関西奇術連合会に属する約80団体のうちのひとつ。連合会は、大阪府・市の社会福祉協議会に登録してお

り、協議会が手品の出張依頼の窓口に。連合会では依頼の連絡を受けると、その地域に近い会員団体を前副会長の八塚昭さんが探して交渉しています。「関西にたくさんある奇術クラブを通じ、もっと多くの人にマジックの面白さを知つてもらいたい。今回の場所は少し遠かったのですが、矢島さんならばらしいショーケースをしてくれるだろうとお願いしました」。八塚さんもマジシャンで自身もよく出張に赴くそうです。

矢島さんは同団体の常任相談役だけ

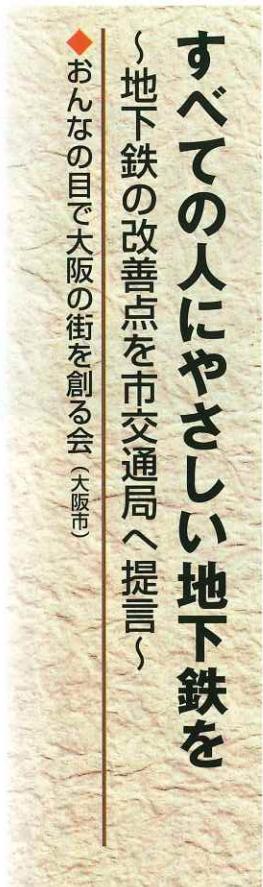
あつて信頼が厚く、そのうえ技をみがくことにはとても貪欲。プロのマジシャンが主催する実演・講演会には必ず参加するといいます。「そこはプロの技

を自分のものにするための修行の場。これからもまだまだレパートリーを増やしていきますよ」と、さらなる向上心を語ってくれました。

すべての人にやさしい地下鉄を

～地下鉄の改善点を市交通局へ提言～

◆おんなの目で大阪の街を創る会（大阪市）



生。その講座の中でメンバーに強い印象を与えたのが、受講生のひとりである辻野文子さん（70）の「地下鉄の階段は苦手なので、時間がかかるてもバスを利用する」という言葉でした。それがきっかけとなり、地下鉄のさまざまなサービスについて、「公共交通機関として障害者や高齢者にも使いやすくなっているか」という視点から点検活動を始めました。

「創る会」では事前に高齢者100人に行つたアンケートに基づき、調査票を作成。そして1996年1月から地下鉄全線の111駅について、階段や料金表、券売機、トイレ、公衆電話などの使い勝手を検証する活動を開始。週1回、実際に車いすを持込み、各駅の状況を一つひとつ丁寧に記録する作業を根気よく続けました。その結果、「長い階段には途中で休める踊り場や誘導鈴など、高齢者に配慮した設備がほしい」「料金表の表示方法を統一して見やすくできないか」「券売機や公衆電話を車いすでも使いやすくする工夫がほ

しい」「車いす用トイレはシルエットが窓に映るものが多く、プライバシーが守れるようにしたい」などの改善すべき点が明らかになりました。

調査が半分終了した時点で、中間報告書と改善要望書を出して、回答と話し合いをもちました。この結果、大きな予算をつけなくてもできる改善要望を再提出。そして、車いす対応トイレの窓にシルエットの映る問題は、すべての窓にシールを貼るという回答をもらいました。



そんな同会の活動は昨年11月の第1回大阪NPOアワードで認められ、グランプリを受賞。これはNPOが活動内容を6分間でアピールし、活動の社会への共感度を競うのですが、「近所の中学でスライド上映の練習をさせてもらったり、寸劇を前日夜遅くまで練習した努力が認められて、賞をいただきました」と「創る会」会員の「つじたえみ」さん。しかし、そうしたプレゼンテー

ション上の工夫もさることながら、バリアフリー社会という目標達成のために、大阪市交通局と話し合う場を設けて実現可能な提案を行う交渉力や実行力が、アワードでは大きく評価されたようです。

アワード終了後はマスコミにも取り上げられて、認知度が格段にアップ。今では、NPOフォーラムや交通をテーマとした研究会にゲストとして招かれることも少なくないとか。今後も「自分たちの住む町をこまやかな女の視点から捉え、全国の地下鉄がある都市の市民グループとネットワーク化を図り、地下鉄のバリアフリー化を目指していくたい」と代表の三好桂子さんは語ります。

市民が団結すれば、社会を変えられる。「おんなの目で街を創る会」は、そんな希望を私たちに与え、躍動するボランティア・パワーを感じさせてくれる元気なグループです。

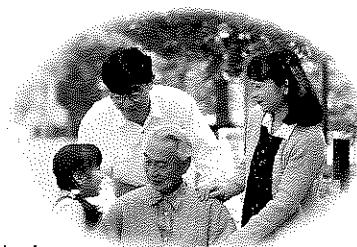
アワード終了後はマスコミにも取り上げられて、認知度が格段にアップ。今では、NPOフォーラムや交通を行って実現可能な提案を行う交渉力や実行力が、アワードでは大きく評価されたようです。

大阪の地下鉄をあらゆる人にとって使いやすい交通機関にしようと、「おんなの目で大阪の街を創る会」が、アフリーグ度の検証を行っています。中心メンバーは、大阪市立婦人会館主催の「女性のための都市環境講座」修了

第7回 おおさか
ボランティアフェスティバル
記念作文・詩・活動手記

楽しさとやさしさが、 ひとつになって花ひらく

大阪ボランティア推進府民会議では、
「第7回おおさかボランティアフェスティバル」開催にあたり、
府内で活動するボランティアの皆さんから、
日頃の活動の中で感じたこと、活動を支える熱い思い、
そして将来の夢etc.を文章に綴っていただきました。
ここでは投稿いただいた10作品と、先般、厚生大臣賞を受賞した
「門真市車イスMAPつくり隊」の活動記録とをあわせてご紹介します。



*紙面の都合上、一部割愛し、編集させていただきました。

中高生150人が参加してくれたよ
♪「門真市車イスMAP」ただ今作成中♪

門真市車イスMAPつくり隊(かどまくる)

2代目隊長 大阪府立門真西高校3年 村中裕季



第7回 全国ボランティアフェスティバル 山形
「ボランティア活動記録コンクール」
優秀賞・厚生大臣賞受賞作文



あなたも「車イスMAPつくり隊」 隊員になりませんか？

その名のとおり、門真市で車いすに乗つておられる方用の便利マップ(冊子)をつくるというものです。(中略)

目標

- ①車いすで生活しておられる方々のお役にたてるよつなMAPづくり。
- ②自分たちや市民の皆さんのがん心を高める。
- ③私たちの門真市を見つめ、さらに住みよい町になるように努める。(以下略)

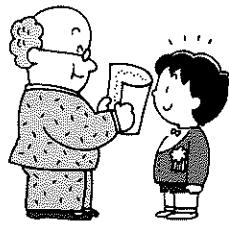
このあと、「人にやさしいお店をさがしています」を掲げて、実際に町へ出て調査が行われました。1998年2月のことです。

「本当にみんな集まってくれるんだろ
うか？」
私たち、スタッフの不安は一瞬のうちに吹っ飛びました。会場の市民ホールは大入り満員、その数何と120名。それも「車いす利用の方に便利な生活マップと一緒に作りませんか」という私たち高校生の呼びかけに対し、集まってくれた中学生が84名もいたのです。

このあと、「人にやさしいお店をさがしています」を掲げて、実際に町へ出て調査が行われました。1998年2月のことです。

「門真市車イスMAPつくり隊(略称・かどまくる)」の設立は、1997年夏。最初は「軽い思いつき」から始まつた、私たちの活動をたどつてみたいと思います。

「大阪やんちや大賞」を受賞しちゃつた!



今回の車イスMAPづくりの発端は、かなり偶然的なものでした。

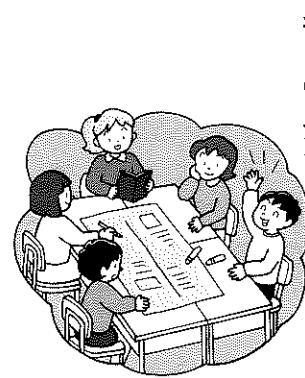
私たちの住む大阪府では、「若者の夢をかなえます」との趣旨で、「大阪やんちや大賞」なる企画を毎年募集しています。府内若者のチャレンジ精神にあふれたユニークでパワフルな発想を支援し、優秀企画には最高50万円の財政的援助をしてくれるというのです。

当時、大阪府立門真西高校の生徒会長であったK子さん（現・専門学校生）が、この「やんちや大賞」に目をつけました。「やりたいことやれてお金まで出してくれるなんて、こんなオイシイことないわ」。

K子さんはいくつかの「やんちやプラン・K子編」を考えましたが、最初から「ボランティアをしよう」と思っていたわけではないそうです。彼女は、「海外での冒険旅行」「有名人を呼んでのチャリティーコンサート」など、どれも楽しく夢のあるイベントを「数打ちや当たる」方式でいくつも応募しました。そして、そのうちの一つに、「門真市車イスMAPづくり」があったのです。この企画は、私たちの高校の卒業生で、交通事故による頸髄損傷のた

め車いすで生活されているN先輩（27歳）のひと言「車いすでも入店できるお店の一覧表があれば便利なんだが：」からヒントを得たとK子さんは言っています。「あまり深く考えていないかった（受賞後のK子さん談）」。この企画が、見事97年度やんちや大賞奨励賞を受賞。30万円の奨励金を得ることになったのです。

「高校生の呼びかけ」に多くの人が



奨励賞受賞に喜んだK子さんでしたが、冷静になって初めてこの企画の大変さと、中途半端に取り組めないことになりました。何しろ、門真市の人口は14万人。調査対象を市の商店だけに絞ったとしても、大小合わせて数万軒もあるのです。調査する側の「隊員」募集が最初の活動となりました。

K子さんの友人多数人が企画スタッフとして活動を始めました。何人かの先生方も、スタッフに加わってくださいました。「とにかくおもしろい。車いす利用の方があんなにギヤギヤばっか飛ばす明るい人たちだつていうのもビックリだったけど、市の各施設についての一言ひとことのコメントが最高。初めて知ったことがいっぱいあって勉強になった」。

副隊長である私の、「車いす利用の方との懇談会」後の感想です。私たちの活動に対して、「エライなあ」という声をときどきいただきますが、私はそうは思いません。自分がやりたいことは何よりも「楽しい」と感じました。

最初は自信もなく、何をしたらいいのかわかりませんでした。しかし失敗

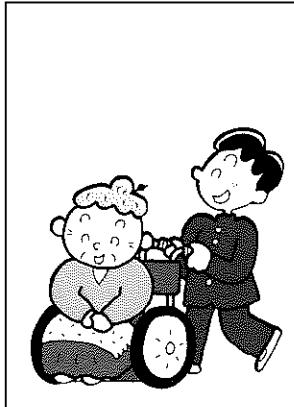
しても「高校生だから未熟ですみません」と言えるのは、私たちの特権（？）です。自分たちの活動をきちんと順序立てて話すのは苦手ですが、気持ちはぶつかれば通じるもの。市内7つの中学校、2つの高校を直接訪問し、協力を訴えました。また、学校の先生方やPTAはもちろん、市の障害福祉課やボランティア団体、また、実際に車いすで生活しておられる方のグループなど、大人の人たちにも「一緒にやりませんか」と呼びかけました。先のK子さんの発案のきっかけにもなった、車いすで生活するN先輩も快く隊員スタッフに登録し、いろいろと実際的なアドバイスをしてくださいました。新聞社や放送局といったマスコミにもファックスを送り、隊員募集と車いす利用の方でも安心して入店できるお店の情報を提供をお願いするほか、インターネットでも呼びかけました。

「とにかくおもしろい。車いす利用の方があんなにギヤギヤばっか飛ばす明るい人たちだつていうのもビックリだったけど、市の各施設についての一言ひとことのコメントが最高。初めて知ったことがいっぱいあって勉強になった」。

副隊長である私の、「車いす利用の方との懇談会」後の感想です。私たちの活動に対して、「エライなあ」という声をときどきいただきますが、私はそうは思いません。自分がやりたいことは何よりも「楽しい」と感じました。

最初は自信もなく、何をしたらいいのかわかりませんでした。しかし失敗

「ハード面」より「ハート面」



ませんでした。私たちが生活の中当たり前だと思っていたことが、実は車いすに乗っておられる方にとっては暮らしにくかったりするのです。高い柵やがたがたの道路には、きっとお年寄りも苦労されているに違いない、そんなふうに、すべての事がつながっているんだとわかったことは、私にとつて何よりも「楽しい」と感じられました。

たまり前だと思っていたことが、実は車いすを参考しておられる方のアンケート用紙の作成作業に入りました。

まず店の入口ですが、車いすは幅が90cm以上ないと入れません。障害者用のトイレはあるのか？ 駐車スペースは？ そう考えていくと、やはり比較的設備が整っている大型店舗に利用が限られてきます。でも、大阪の下町・門真市内にはそんな大型店は少なく、また車いす利用の方は設備の整えにくい小型店舗には行けないのでしょうか。

（設備に勝るものは何だろう？）

私たちちは考えました。そして、先の車いすを利用されているN先輩の、次の言葉から答えを見つけました。



滿員御礼
第一回隊員総合 | 齊藤義

「どうか?」などの声を多くいただきました。「たかが中高生」の私たちの話を、お店の人たちが真剣に聞いてくださいましたことに感動しました。

一方、「フランチャイズ組織の店なので、そういう質問には一切答えられない。上を通してもらわないと……」「当店は載せてもらわなくとも結構です」といつて断るお店もいくつかありました。

年1月末、6回もの改訂作業を経て調査票が完成しました。「スロープや障害者用駐車場、トイレなどは完備されているか」「点字の案内や手話のできる店員はいるか」などの「ハード面」とともに、「店員の接客」「車いすに乗ったお客様が来たときの対応」などを問う「ハート面」の質問項目を多く盛り込みました。このとき「つくり隊隊員」として登録された数は、中学生から60歳を越えたお年寄りに至るまで、130人を超えていました。

私たちは、「設備に勝るのは”人の心”だ」ということに気がつきました。今までにも車イス MAP づくりに取り組んだ例は全国にいくつかあると思いますが、私たちの一一番の特徴は、この”心”的面を最重要視したことだと思います。そこで、「設備などの”ハード面”よりお店の方の”ハート面”」を合い言葉に、「人にやさしいお店を重視」という方針をたてたわけです。

「スロープや障害者用のトイレがなく
ても、店員さんが行つたらすぐに車い
すを介助してくれるような店は安心し
て利用できる。」

これまでの活動内容をビデオで紹介、車いすで生活しておられる方や視覚障害を持つておられる方の小講演、車いすの実体験コーナー、そして、調査にあたつての諸注意などの説明のあと、この日集まつた約100名の隊員は、町へ調査に出ていきました。

この日の調査は、古川橋駅周辺の商店約60軒。高校生1、中学生2、大人の4人をひと組として、調査票と90cmの長さに切られたひもを持参します。「車いすが通るには、最低90cmの幅が必要なんですね」と、店の人に説明しながら実測するのです。

【準備号】と題した、手刷りのB4版
2枚組みのリーフレットは、3月に完
成しました。古川橋周辺の「人にやさ
しいお店」約20軒を掲載しています。
▽ハンバーガー店……店内の通路は車
いすが通れる。「レジから入口」が見える
ので、来店されたらすぐにお手伝いい
たします」

△郵便局……入口のスロープが少し急。
車いす用の低いカウンターがある。

などの車いす利用の方の視点から
だけでなく、「手づくりパンが大人気」など、一般
ガイドとしてのコメントも充実させま
した。このマップは、市役所障害福祉
課のカウンターや郵便局、私鉄駅など
公共機関に置かせてもらうことになり
ました。

私はこの小さな活動をもとに、少しずつより多くの人の意識が「誰にとっても住みやすい町づくり」に向いていったらしいなあ、と思います。車いす利用の方に「やさしいお店」は、きっとお年寄りにも「やさしく」て、視覚障害の方や妊婦さん、子どもたちにとっても「やさしい」。「やさしいお店」は、私にも「やさしい」と思うのです。私は、小さいことでも、自分のできることからやっていくことを大切

「秋の集中調査会」
参加者募集!

「かどま～る」では、「人にやさしいお店・目標500件」を達成するため、11/22(日)・23(祝)・28(土)・12/17(木)に門真市内で集中調査を行います。
時間はいずれも午前10~12時。ご協力いただける方は下記までご連絡ください。

TEL 010-07-42141
FAX 06-915-0868
隊長 村中裕季（門真西高校3年）

にしようと思います。最初は小さくて
も、一人ひとりが自分のできることを
やつていけば、「住みよい町」「人にや
さしい町」に近づいていくのではない
でしようか。

新年度に入り、高校を卒業したK子
さんの後を繼いで、私は2代目の「車
イスMAPつくり隊」隊長になりました。
た。今度は、門真市全域を網羅したマ
ップと、「放置自転車の状況」「駅から
学校まで、車イス実跡記」「車イスMA
P作り方講座」(予定)などの「特集記
事」を載せた冊子(100ページ規模)
の作成を目標に、さらに調査をすすめ
ています。また、最近他市のボランテ
ィア団体からの問い合わせもよく受け
るので、「車イスMAPマニュアル」づ
くりにも取り組んでいます。

4月段階で、隊員数は186人。内
訳は中学生が120人、高校生24人、
大人42人で、7月に行う予定の一斉調
査会では、ぜひ実際に車いすに乗つて
おられる方々と町を巡ろうと計画して
います。私たちの活動はまだ始まつた
ばかり。これからが本番です。

第1彈MAP完成-



いろんな人が、共に関わり合っている

豊能町・杉の会 米田 晓美・35歳

いろいろな人と出会って、いろいろな考え方で触れて、様々な経験をするということの大切さをこのころ特に感じるようになつた。

最近「どうして手話を始めたんですか?」と尋ねられることがあり、答えに困った。子育て真っ最中で、決して暇をもて余していたわけでもないし、通訳生になりたいと思っていたわけでもない。もともと誰かの役に立つことをするのではなく方ではあつたと思うが、何かをしてやろうという気負いはとくになかった。たまたま以前から興味があり、新聞折込で講習のちらしを見つけただけのこと。でもそれが今にして思えば私のボランティアとしての活動の起点であり、現在の私の生活の

大部分を占める活動の第一歩となつた。手話の話や手話コースで子どもと接する機会があるとき、いつも思う。小さいときからあたりまえにいろいろな人とふれ合つて、いろいろな人が共に関わり合いながら生活していることを肌で感じてくれたらしい。大人の責任としていろいろな場を子どもたちに提供してやれたら、あたりまえに支え合つて刺激し合つて育つていってくれるだらう。

ボランティアとして活動する中で、子どもの目から見ても自然な関わり方ができるよう、もう大人になつてしまつた私は、心の通い合うふれ合いをして思つてはいる。

大きくなつたどんぐり

羽曳野市・どんぐりの会 富士本 浅子・62歳

どんぐりころころどんぶりこ。私たちのボランティアグループの名前は、可愛い童謡のどんぐりころころにちなんで、どんぐりの会といいます。「ずいぶん若い人たちね」と思われそうです

が、実は平均年齢が63歳のおばさんばかり8名です。

ないかと考えたところ、近所には、老人ホームも養護施設もあるのです。メンバーの中からは、家庭の事情で施設に預けられている小学校の低学年の子どもたちを、私たちのハイキングにつれていくて、楽しく一日里親ができたらしいなという意見が出ました。そこで施設に申し入れますと、とても喜んでくださつて、以来、里親ボランティア活動が今日まで続いています。

その施設は羽曳野荘といいます。子どもたちは親の手元から余儀なく離され、親の膝のぬくもりも、抱きしめられる快い痛みも知らずこの施設に来ています。でも、園長先生はじめ教職員の方々、とくにお母さん代わりの保母さんは、どの子どもにも深い愛情を持つて接していくつしやいます。私たちも簡単に申し入れはしましたが、里親の接し方についてはずいぶん戸惑いました。

しかし初めてハイキングを行つたときは、いろんな心配ごとが吹つ飛んでしまいました。まず、一人ひとりが自分のお母さんはこの人、と決めるのです。ぐつと手をにぎつて歩きます。私たちは、「お母さんは?お父さんは?」と話しかけることはタブーにしていました。でも、そんな心配は不要でした。

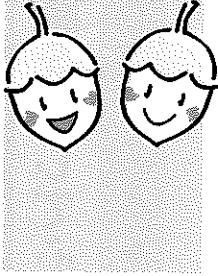
園での出来事、先生と一緒に風呂に入れる話、夕食のことなど、なんの届託もなく、楽しくおしゃべりしてくれます。電車に乗れば、必ず膝の上に座る子、少し歩いては、しんどいからおんぶしてといつて甘える子、絶対に手を離さうとしない子。子どもたちと里親の関係は、まったく上出来だと確信しました。

ました。

いつも、お母さん手づくりのお弁当を持参します。あの子はゆで卵が好き、この子は人参が苦手、煮物はAちゃん。いつしか皆覚えてしまつて、お母さんたちも、一日楽しく過ごせて、幸せいっぱい園に帰ります。送つて行つて、園近くになると、しつかり握つていた手を自分から離して、走つて門に入ります。大きな声で、「ただいま!」と先生の顔を見るなり、楽しかったことを口々に告げています。先生も「よかったです」と喜んでくださいます。

いかにやさしく育てておられるのかがわかります。ある日、やはり遊園地に連れていったときに、帰りの電車の中で、一人足りないことに気がつきました。でも、もう電車は動いています。ちょうど、最後尾の車両だったので。ふとプラットホームを見ると、一年坊主のK君が立つているのが見えたので、全員があつと声を挙げました。同時に、血の気がさあーと引き、次の瞬間、全員ドアに走つたのです。でも後の祭りです。次の駅で飛び降りて、駅員さんに連絡する者、逆の方向のプラットホームに走り出す人、てんやわんやの大騒ぎになりました。待つこと20分余りで、K君は泣きもせず、電車から降りました。里親たちは、走り寄つてお互いに抱き合い、涙ながらに「K君をプラットホームに忘れてきてごめんね、ごめんね」と謝り、大反省の一日でした。

グループのひとりが「こんな頼りない里親に、大事な子どもを預ける訳にはいかんと言われるのじやないかしら」と真剣に悩みました。その大失敗があ



つてグルー^プのひとりが、全員に揃いの帽子をつくってくれました。遊園地やアスレチックなど、子どもがたくさん集まる所へ行く機会が多く目配りが大変なので、そんなときはジャンバー^{やTシャツなど、全員が同じ服装をして}行くのです。

夏休みとお正月休みは、帰省の期間があるのですが、家に帰れない子どもたちだけ私たちの各家庭にひとりずつ、2日から3日程度つれて帰ります。それも子どもたちはとても喜んでくれて、家には、皆さんご主人がおられますが、やはり良き理解者で、一緒にテレビを見たり、ゲームをしたりして遊んでくださるそうです。子どもはすぐうちにけます。私たちも、小さなお客様をお迎えで、いつもと違った雰囲気の夕食タイムを過ごし、一緒にお風呂に入ります。男の子は、ご主人と一緒にいる子もいるそうです。こんなかわいい子を、どうしてこんな目にと思わずにはいられないおつしやつの方もおられます。

年に1回学園の秋祭りに招待されます。そのときは、卒園した子どもたちが私たちの顔を見るなり、「おばちゃん」と走り寄ってきてくれるのが何よりも嬉しいひとときです。あのやんちゃく

では理科クラブに入つたと聞いていました。なぞなぞが好きで、私たちはいつもやつつけられてばかりだったのです。でも、その死顔は、何ともやさしく、美しい顔だつたのです。きっと、お父さん、お母さんに会えて嬉しかつたのだろうと皆で言いました。Ｔ君安らかに：と祈るばかりで、明二日に、野辺送りをしたのでした。

「親慕う十四の春に召されゆく」「制服のりりしい遺影に初日さす」

一年に数回というボランティア活動ですが、施設の子どもたちを通じて、社会のひずみを垣間見て、大人たちのエゴを知り、純真な子どもの

「親慕う十四の春に召されゆく」
「制服のりりしい遺影に初日さす」
刃辺送りをしたのでした。

新ママとの出会い
ずっとつづつとつづけたい

豊中市・そよかぜ
林俊子・55歳

たいした特技もなく、家事だけを一
てきた主婦の私。暇な時間を持ってあま
し、ボランティアでもと思い、セントラ
ーに行つたのは5年前です。とても勇
気がいりました。年期だけがたよりで
得意でも好きでもない家事。ほかに私
ができそうなこともなく、一番身近に
感じた家族援助グループ「そよかぜ」
に入りました。

5年の中にいろいろな人に出会い、
今まで全然知らなかつたことを経験し、
家で主婦をしていたら行くこともなか
つたような所へも行くことができまし
た。生まれたばかりの赤ちゃんのお世
話。何十年ぶりかの授乳、沐浴、おし
めの交換。最初は新米のお母さんより

たいした特技もなく、家事だけを一
てきた主婦の私。暇な時間を持ってあま
し、ボランティアでもと思い、セントラ
ーに行つたのは5年前です。とても勇
気がいりました。年期だけがたよりで
得意でも好きでもない家事。ほかに私
ができそうなこともなく、一番身近に
感じた家族援助グループ「そよかぜ」
に入りました。

5年の中にいろいろな人に出会い、
今まで全然知らなかつたことを経験し、
家で主婦をしていたら行くこともなか
つたような所へも行くことができまし
た。生まれたばかりの赤ちゃんのお世
話。何十年ぶりかの授乳、沐浴、おし
めの交換。最初は新米のお母さんより

そのうち昔を思い出し、少しづつ慣れ、ゆとりをもってお手伝いができるようになりました。若いお母さんは私たちを信頼しているのであまり心細い顔はできません。やつと慣れて自信がついたころ、赤ちゃん、お母さんとお別れです。これからは若い両親が試行錯誤しながらがんばって欲しいと思いながら：本当はもっと関わっていたい気持ちはあります。少しあみしい気もしますが、また新しい出会いも待っています。

ささいなお手伝いをして、喜んでもらえ、とても良い気持ちになります。この感激を味わうため、ずっとずっと続けたいと思う日々です。

のM君が左官の見習いをしている。しかし、「おばちゃんの家の壁、もし汚なかつたら、僕塗つてやる」と言つてくれました。立派な一人前の左官屋さんになつてね、と祈らずにはおれませんでも、不幸な出来事もありました。お正月に親元に帰省したのに、家ではなく、両親が車の中で寝て、子どもひとりだけ、山中の物置小屋で夜を過ごすことになつたそうです。その子どもが僕を迎えるために別荘を買ったのが僕の園への便りには、「お父さんとお母さんが僕を迎えるために別荘を買った」

心を傷つけ、平氣で世の中渡つていい大人が大勢いることに義憤を感じます。子どもには罪がありません。私たちのしている活動が、ほんの少しだけでも子どもたちの心の糧となるのならと、老体にムチ打つてがんばつていこうと考えています。

市のイベントには、必ずヨーヨーつりや手づくりパンの模擬店を出して、ボランティア活動資金をつくるといいます。今年も、花火大会のテントの下で屋台を出しました。

今年、夜間高校を卒業するどんぐりさん。4年間、1日も休まず新聞配達をやりとげたと聞きました。店主もこんな少年は初めてとほめていたそうで、誇りに思います。おばちゃんたちも陰ながら応援しています。どんぐりころころどんぶりこ、お池にはまつてさあたいへん。私たちの大事な大事などんぐりさん、池にはまつても、どうようと仲良く立派な大人になつてください。そして、良き伴侶を得て、かわいい孫のどんぐりさんに会わせてください。

新舞踊を通して心の交流

河内長野市・すみれ会 柏木三代子・49歳

詩二篇

岸和田市・小さな友の会

阪井健一・34歳

奥塚さんのように

二十歳を過ぎてから
列車事故で両腕を無くした
畏友奥塚さんと

震災直後
長田区を訪ねた。

一期一会

夜のテント村を訪ね

あるテントに
声をかけたら

若い奥さんが出てきた。
美しい人だった。

何も言わず

ただ祈りをこめて

そっと一冊の詩集を手渡した。

女性人は

不思議そうに
受け取つて下さった。

あれから

あの女性はどうなつただろう。
震災直後の

ある夜の一期一会だった。

人との出会いの大切さを実感

石原道子・20歳

他人のために尽くせる

人生でありたいと

被災地を歩きながら

私は願う。

人生に光はなくとも

人生は光なのである。

それは、ひとつのお会いでした。いつも私がどん底にいるとき、誰かが助けてくれます。その誰かのひと言が、私にとっての気持ちのうえでの支えになります。ほとんど目が見えなくなつたとき、私は人とのコミュニケーションの方法すら思いつきませんでした。

私たち「すみれ会」は、週に1回、新舞踊のお稽古をしていました。みんな仲が良く、和気あいあいとした雰囲気の教室です。でも、発表会が近くなりますが、少しでも上達するように先生の指導も厳しく、私たち生徒も真剣に取り組まねばなりません。そんなお稽古の合間に、施設で盆踊りの講習会をしたり、新舞踊のご披露をしたりで、いい汗を流してがんばっております。

毎年4月と9月には、長野敬老院で新舞踊を披露させていただき、皆さんに喜んでいただいております。今年も4月5日、屋外の舞台で、桜が満開の中、「大和撫子花吹雪」「人生いろいろ」「竹」「人生浮世ばやし」など、季節に合わせた曲を演じさせていただきました。

そのとき、いすに座つて見ておられ

た老婦人のおひとりが、曲に合わせて手踊りを始められました。そしていつのまにか舞台上に上がり、敬老院の若い女子職員の方に付き添われて、一緒に輪の中に入られたのです。そのときのおばあちゃんの嬉しそうな顔が忘れられません。私たちもいいことをさせていただきたいという思いで幸せな気持ちになり、本当に楽しいひとときを過ごさせていただきました。

人にに対するやさしい気持ちがあり、人々に尽くせる自分になれてこそ、私たち自身も充実した人生が送れるのだと思います。ボランティア活動の意味をもう一度考え、舞踊を通して友情が結ばれ心の交流ができますよう、今後もすみれ会一同、日々精進してまいります。

それを教えてくれたのがたつたひとりの看護婦さんでした。「世の中つてそんなもんじゃないよ」。そんなもんじゃないという意味がそのときは、まだよくわからいでいました。「自分にどうして世の中なんて最低だわ」と思つて生きてきた私でした。しかし、彼女の言

いまま奥塚さんは、そのまま共感できる。人生を生きていたのである。

奥塚さんは、

そのまま共感できる。

薬を信じて、私は一日一日を精一杯生きてきたつもりです。

そしてその看護婦さんに、コミュニケーションの方法を教えてもらいました。「目の見えない人はみんなそれで勉強しているのよ。点字というのは、6つの点で、言葉を表しているの。その言葉が連なつていってひとつずつ文章になる。目の見えない人は、点字を読んで勉強しているのよ。だから、みつちやんにもできないことはない。点字を始めたみたら」と教えてくれました。

それが、私が点字を習い始めるきっかけでした。はじめは、すごくどきどきしましたが、すぐに慣れることができました。点字の先生がびっくりするくらい点字の進歩は速かつたのです。点字は、私にとってはとても貴重なものとなっていました。これで勉強ができる。本が読める。人と手紙のやりとりができると思いました。

そして、点字を習いはじめてひとつだけ、ふしきなきつかけがありました。点字の先生が、病院を変えることをすすめてくれたのです。膠原病——この病気は、治らない病気だと思いこんでいました。原因が判らず、一生この病気とつきあっていかなければならないと思いこんでいました。結局、治らない。誰にも信用されないんだって思い続けていました。このように思いこん



でいた気持ちをかえてくれたのが、ある先生との出会いでした。

「このまま放つておいてはだめだよ。転院しなさい」というその先生のひとり言で、私はべつの病院に移ることになりました。結果原因はわからず、検査のため疲れ果てる毎日でしたが、ひとりの先生が、私の気持ちをわかってくれました。私は、長い入院生活にビリオドをうつことになりました。

そのかわり、多量の薬をのみ、感染しないよう気をつける生活が始まりました。私は、痛みからも解放され、勉強にも身をいれることができるように、大学受験にもこぎつけることができるようになりました。受験前、私は何度も入退院をくりかえしましたが、受験することができました。結果は不合格でしたが、精一杯がんばることができたことが私にとってよかったです。

その後、「福祉学科の聴講生としてその大学に通うことができ、たくさんの友だとの出会いがありました。今までは、病気や障害をからかう友だちしかいませんでした。ひとりぼっちの自分を寂しく思っていました。

でも大学の友だちは違いました。何がひとりぼっちなのよ。僕たち私たちが友だちじゃないか。僕たちも、石原さんと出会えてとてもうれしかったよ」と言って励ましてくれました。また大學生の教授が、一聴講生としての私に、学生とかわらないほど、いろいろな相談にのつてくださいました。

自然にふるまうことがない 私はがんばらない

豊能町 大村 澄子・51歳

だいぶ前からボランティアをしていました。始めたころは周囲の人には内緒にしていました。自分でそうは思っていないのですが、心のどこかにボランティアをしているといった思ひ上がりがあります。だからだらうか。不随意に動く手足を車いすに縛られた人を見て、失礼と解りながら、涙が出てしかたなかつた。

今は重度の障害を持つた方とも平常心でつきあえる。ボランティアをしていくけれども、と躊躇している人に、自分のできることからはじめたら、とおもなことを言つ。少しは、成

大学の友だちには、今までの自分のことをみんな話しました。いじめられたことを話すと、その友だちは、「子どもって残酷ね。でも、僕たちがそんな君の思い出を消してしまえるほどの友だちでいるよ」と言ってくれました。そして、その友だちに話をすることができるようになりました。私は、ひとり生きていけないけれど、みんなで生きていいくことができるようになりました。

また、人との出会いの大切さを本当に感じました。私は、病気になつて障害をもつようになり、人の温かさを感じられるようになりました。「人生って教えてくれました。

また、人の心のなかでわだかまつたものを、すつきと消すことができました。私は、痛みからも解放され、勉強にも身をいれることができるように、大学受験にもこぎつけることができるようになりました。受験前、私は何度も入退院をくりかえしましたが、受験することができました。結果は不合格でしたが、精一杯がんばることができたことが私にとってよかったです。

みんなの力でよくなつていこう、と励ましてくれた看護婦さんや友だちの言葉を忘れることなく、これから自分の道を見つけていこうと思います。果たせなかつた夢はたくさんあります。そのためには生き方を見失わないよう、もう一度よく教えてくれました。

みんなの力でよくなつていこう、と励ましてくれた看護婦さんや友だちの言葉を忘れることなく、これから自分の道を見つけていこうと思います。果たせなかつた夢はたくさんあります。そのためには生き方を見失わないよう、もう一度よく教えてくれました。

みんなの力でよくなつていこう、と励ましてくれた看護婦さんや友だちの言葉を忘れることなく、これから自分の道を見つけていこうと思います。果たせなかつた夢はたくさんあります。そのためには生き方を見失わないよう、もう一度よく教えてくれました。

みんなの力でよくなつていこう、と励ましてくれた看護婦さんや友だちの言葉を忘れることなく、これから自分の道を見つけていこうと思います。果たせなかつた夢はたくさんあります。そのためには生き方を見失わないよう、もう一度よく教えてくれました。

みんなの力でよくなつていこう、と励ましてくれた看護婦さんや友だちの言葉を忘れることなく、これから自分の道を見つけていこうと思います。果たせなかつた夢はたくさんあります。そのためには生き方を見失わないよう、もう一度よく教えてくれました。

わざかでも外からの風を感じてほしい

豊中市・みちしるべ 黒坂 武夫・68歳

定年後のある日、ためらう心にムチ打つて門をたたいたのがボランティアグループ「みちしるべ」でした。続けられるのか不安な思いのなかで1年半、私なりの小さなボランティアをやつてきました。車いすでの外出介助、障害児のリハビリの手伝い、車いす体験学習の講師など、日によつては自分の体力以上のことをして体がくたくたになることもあります。皆さん生き生きした顔を見ると、心の中に不思議なそよ風が吹いていることに気づいています。

誰もが心のケアを必要とするこの時

代に、本人、家族ともども肉体的・精神的ストレスを克服する毎日はまさにたかいの連続であろうと思ひます。いつまでたつても回復しない自分の病気に対するいらだち、医師、病院に対する複雑な思い、行政はどこまでみてくれるのか不安もあるでしょう。

私は、皆さんにわざかな時間でも外の空気につれてほしいし、また同じ時代に生きる者同士の会話がはずめば、なおうれしいと思つています。小さなことしかできないけれど、その手助けをすることが、自分をはげます力にもなつてゐるのです。

障害のある方とともに10日間の旅

河内長野市 安武 慎作・大学生

5月下旬から6月上旬の10日間、社会福祉協議会の紹介で某旅行社主催のドイツ・ベルギーツアーにボランティアとして参加する機会があつた。同ツアーカーの参加者が障害者とその家族で、さまざまな面でボランティアが必要とされたためだ。総勢24名のうち車いす使用者が9名（平均年齢40歳で、ほとんどが自力歩行できない）、そのご家族

や他の障害者が10名、添乗員の森下さん、日本人ボランティアが2名、ドイツでの現地人ボランティアが2名という構成であつた。

正直なところ、高齢の車いす使用者がそんなに多くて旅行が成り立つだろうかされたことがいくつもある。

まず第一に、参加者が相互に依存する度合いが大きいため、親密な関係が生まれることである。考えてみると、健常者のツアーやの場合、とくに社交的な人でもなければ添乗員以外に他人はほとんど必要ではないであろう。むしろ、何度も集合時間に遅れる非常識な

イオニア。それ以来他の旅行社を指導したり、業界紙に執筆したり各地で講演したりするほどの方であるから、旅行前の不安は杞憂にすぎなかつた。以下、ボランティアとして参加した立場から、旅の感想を思いつくままに述べてみたい。

ボランティアの一日は、起床してすぐ、身支度の介助が必要な方々の部屋を回ることから始まる。食事の介助はもちろん、狭いステップに気を遣いながらバスの乗降、レストランや観光地などで車いすの上げ下げ、トイレ介助、入浴介助などを行つるのが一日の仕事内容である。

ガイドさんやバスの運転手さん、あるいは通りがかりの人など、大勢の人々に手を貸された。朝起きから夜寝るまで、誰かが助けを必要としないいかつねに周囲に気を配る。

…といいたいところだが、実際にそ

うしていたのは森下さんぐらいで、私なんぞは2～3日もたつと疲労困憊し、バスに乗り込むなりガイドさんの案内が甘い子守歌に聞こえてくる、といったありさま。肩や腰のみならず、足の裏にまでサロンバスを貼つてボランティアをしたのは初めてであつた。

旅の中で、とても良かつたことや気

づかされたことがいくつもある。

まず第一に、参加者が相互に依存す

くことができたことも良かった点であ

る。堕落した大学生として非生産的

日常を送つていると、そんな風に一日

を終えられる日は少ない。自分が必

要とされているんだ、役に立つているん

だ、と感じられる稀有な機会を持って、

自己満足かもしれないが、とても嬉しかつた。

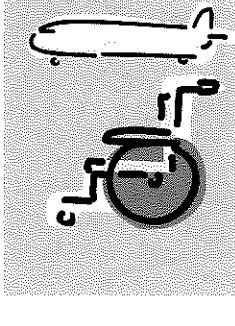
障害者対象のツアーや醍醐味をよく表すエピソードに次のようないふる。森下さんの企画する障害者のツアーやには、度々他の添乗員が同行するそ

うだ。特別な手当が出るわけではなく、ペイだけを考えると決して「おいしい」仕事ではない。

人の存在が迷惑なぐらいである。

しかし、障害者のツアーやあれば、ほぼ四六時中介助を必要とする人と、

あるいはその家族やボランティアと行動を共にする。私の場合、車いすを押しながらその方と言葉を交わし、バスの乗り降りの際には他のボランティアたちと声を掛け合いながら、チームとして仕事をした。いつも誰かが誰かのそばにいる、誰かが誰かを必要としている、そんな状態がほぼ一日中、10日間も続くのである。



そんな様子であるから、添乗員として同行した場合、二度と参加したがないのでは、と予想される。ところが、大抵の添乗員が再度参加を希望するらしい。確かに肉体的にも精神的にも負担は大きい。しかし、障害者のツアーには、その負担を補つてあまりあるものがあるという。

添乗員が率先するから、肉体的にもかなりの負担である。しかも、我々ボランティアは、夕食後の入浴介助さえ済めば床に就けるが、添乗員の場合そうはいかない。会社や次の訪問先への連絡、一日の行程で生じた出費の精算などさまざまな事務処理に追われる。いびきをかいてぐっすり休んでいる私を見目には、森下さんは睡眠前に毎晩数時間も机に向かつておられた。

ある。たとえば訪問先に段差はあるのか、あるとすればどの程度か、スロープは使えるのか、助けは得られるのか等々、事前に調べねばならないことがたくさんある上に、ホテルやレストランなどには特別な配慮を要請せねばならない。また参加者の安全確保などに気を配りつつ、ボランティア全体の仕事を組織しなければならない。

うだ。それらの人たちは概して感動や感謝よりも、サービスに対する不満を述べることの方が多いらしく、添乗員として行動を共にしていると、まるで使用人扱いされていると感じることもあるそ

方も々と接することにより、自分の問題がどうに足らぬものであると感じた。どんな問題でも、姿勢次第でそれを前向きに切り抜けていけることに気づかされ、大いに励まされた。体は疲れたが、大変すがすがしい思いにさせられ、「よし、がんばろう」と元気つけられたのである。

これは、ほとんどのボランティアの共有する思いであろう。障害者が懸命になつて物事に取り組み、挑戦すると、我々ボランティアや周囲の者は、無理だと思つて諦めている自分が恥ず

普段から助けたり助けられたりの
関係づくり

HOW ARE YOU? わななりさん
I AM FINE, AND YOU?

高石市・ぐるつぶほちほち
羽野建一・58歳

平成12年（2000年）4月から介護保険制度が施行され、地域ケアに新しい施策が期待されておりますが、その内容については総論賛成・各論？？的な現実があるよう聞いております。確かに現状は、ホームの建設やケアコーディネーター・ヘルパーの養成、各種制度の整備などが先行しております。恩恵を与かる側の思いとのギャップが大きいようです。

かしくなり、勇気づけられる。障害者の家族が、行政や地域社会の不十分な対応にもめげず、粘り強く社会を住みやすく改善しようと努力するとき、我々はそのたましさに感動する。我々健常者には決して十分に理解することのできない苦労や不安を抱えながらも、障害者やその家族が物事を楽しもう、前向きに取り組もう、とするとき、周囲の多くの者が励まされ、教えられる。そしてそんな魅力ゆえに、多くの人々が続々とボランティア活動に参加しているということを、ぜひ障害者やその家族に知つてほしいと思う。

かしくなり、勇気づけられる。障害者の家族が、行政や地域社会の不十分な対応にもめげず、粘り強く社会を住みやすく改善しようと努力するとき、我々はそのたましさに感動する。我々健常者には決して十分に理解することのできない苦労や不安を抱えながらも、障害者やその家族が物事を楽しもう、前向きに取り組もう、とするとき、周囲の多くの者が励まされ、教えられる。そしてそんな魅力ゆえに、多くの人々が統々とボランティア活動に参加しているということを、ぜひ障害者やその家族に知ってほしいと思う。



ボランティア

Vクリッピング ボード

ボランティアをやってみたい!
そんなあなたに耳寄りな情報満載

ご利用に当たって

ボランティア活動へ参加を希望される方は、事前に各団体にお問い合わせの上、条件等を話し合ってから、参加してください。

●このコーナーに記載の情報はホームページでもご覧になれます。

<http://www.ovnet.or.jp/>



3

無煙環境ポスターの 発送ボランティア募集。

活動内容：子どもに対する環境問題啓発ポスターの発送作業を手助けください。

日 時：月曜日～金曜日

10:00～16:00

(週に一回程度・単発も可能)

場 所：「子どもに無煙環境を」推進協議会事務所
(大阪市中央区玉造)

費 用：交通費及び昼食代支給

問合せ先：TEL/FAX 06-765-5020

「子どもに無煙環境を」推進協議会
(16:00以後)

E-MAIL muen@silver.ocn.ne.jp

1

障害者(児)のグループホームで 一緒に料理を作りませんか。

活動内容：グループホームの食事づくり、買物等と一緒にしてほしいです。みんな明るく楽しいグループホームで、たまに一緒にカラオケや遊びにいったりしています。気軽に来てください。

日 時：火曜日～日曜日 15:00～21:00 (応相談)

場 所：グループホーム ウィルド

(東大阪市岩田町5-7-21)

近鉄奈良線 若江岩田駅 徒歩10分

近鉄バス 岩田5丁目 徒歩3分

募集対象：専門学校・短期大学・大学生、成人(概ね10～50歳代)/男女、初心者歓迎

費 用：交通費応相談。その他活動費用負担なし

問合せ先：TEL/FAX 0729-65-3216

東大阪市とらいあんぐる(担当/岩切友三郎)

4

障害者(児)施設あじさいの家で 介助者を募集。

活動内容：通所者の食事・作業・トイレの介助。通所者は全介助なので、人手が必要です。応募をお待ちしております。

日 時：火曜日、金曜日 10:30～15:30

場 所：あじさいの家(大東市御供田2-1-28)
JR学研都市線 住道駅 徒歩5分

募集対象：成人(概ね30～50歳代)、女性

費 用：交通費1000円以内支給

問合せ先：TEL 0720-75-2375

大東市肢体不自由児・者父母の会通所施設あじさいの家
(担当/生駒みよ子)

2

盲導犬を使用する視覚障害者と 一日過ごそう!!

活動内容：盲導犬使用者の会総会で、視覚障害をもった方と一緒に落語を見るなどの活動です。

日 時：11月28日(土)12:00～15:00

11月29日(日)10:00～17:00(いずれか一日でも可)

*説明会は11月20日(金)18:00～20:30

場 所：28日は説明会にて指示。

29日は「プランタンなんば」前 JR・地下鉄・近鉄・南海なんば駅 徒歩約10分

募集対象：高校生以上/初心者、グループ・親子での参加、外国人歓迎

費 用：集合場所までの交通費、食費は自己負担

(活動中の移動費は主催者で一部負担)

問合せ先：TEL 06-357-5741 FAX 06-358-2892

(福) 大阪ボランティア協会(担当/南)

申込締切日：11月20日



Vクリッピングボード

8

あなたのパワーを知的障害者(児)の作業所「なかよし」へ。

活動内容: 作業所利用者の話し相手、作業援助、行事活動等
日 時: 水曜日以外 10:00～16:00
 (ただし宿泊体験の時は宿泊要)
場 所: なんばなかよし作業所（大阪市浪速区）
 地下鉄御堂筋線・大国町駅 徒歩3分
 南海電車 今宮戎駅 徒歩1分
 *行事の時は屋外になります。
募集対象: 高校生、専門学校・短期大学・大学生、成人
 (概ね10～20歳代)
 初心者・グループでの参加歓迎
費 用: 作業所までの交通費は必要。利用者と行動する場合は作業所負担
問合せ先: TEL 06-649-7610
 なんばなかよし作業所（担当／井上）

9

子供の保育を手伝ってくださるボランティア募集。

活動内容: 私たちは統合保育形式の遊びのクラブです。子どもと一緒に遊んだり、遊びの企画や会の運営を手伝ってくださる方を求めます。一緒にドキドキ、ワクワクできる活動をしませんか。
日 時: 活動：第2土曜日 9:00～19:00
 ミーティング：第2木曜日 19:00～21:00
場 所: 大阪市北区民センターなど
 JR大阪環状線 天満駅 徒歩3分
募集対象: 小学生・専門学校・短期大学・大学生、成人
 (概ね10～20歳代)
費 用: 交通費と昼食代は自己負担。キャンプやハイキングの時には実費程度の参加費が必要です。
問合せ先: TEL 06-356-0345
 手づくり保育研究会（担当／酒井妙子）

10

海外から帰国、または来日している子どもの通訳ボランティアを。

活動内容: 柏原市内の学校に通学している子どもたちに通訳及び日本語の指導をしてくださる方を募集します。
日 時: 随時
場 所: 柏原市内
 近鉄大阪線・JR大和路線沿線
募集対象: 特にポルトガル語、ベトナム語、中国語のできる方
問合せ先: TEL 0729-72-1501 (内線2916)
 FAX 0729-70-2173
 柏原市ボランティアセンター

5

知的障害者との交流をめざすボランティア募集。

活動内容: 太平学園には知的な障害のある人たちが生活しています。知的障害についての理解を深め、「共生社会」について一緒に考えましょう。
 (A) 講座「“知的障害者”の理解と手助け
 ー共に生きる社会を」
 11月14日(土)13:30～16:30
 太平学園(和泉市伯太町3丁目13-68)
 (B) 「風船バーレーボール大会」で知的障害者と
 交流
 11月22日(日)13:30～16:30
 和泉市民体育館(和泉市府中町4丁目20-3)
募集対象: 専門学校以上(概ね10～50歳代)／初心者歓迎
問合せ先: TEL 0725-45-2760 FAX 0725-45-2766
 (福) 日本ヘレンケラー財団 太平学園
 (担当／片山真弓)

6

「口唇・口蓋裂児と共に歩む会」例会での保育ボランティア募集。

活動内容: 口唇・口蓋裂の治療に従事する形成外科、口腔外科、S.T.の先生方を招いてのシンポジウム開催に伴う保育ボランティアを募集します。
日 時: 11月23日(月) 12:30～17:00
場 所: 尼崎市立労働福祉会館
 阪神電鉄 尼崎駅 徒歩10分
募集対象: 専門学校・短期大学・大学生、成人(概ね10～20歳代)
女性・初心者・グループでの参加歓迎
問合せ先: TEL/FAX 0798-33-3045
 大空会 口唇・口蓋裂児と共に歩む会
 (担当／檜崎 明美)

7

障害者・高齢者の外出介助をする運転ボランティア募集。

活動内容: 柏原市社協のリフトカーで通院や外出時の運転ボランティアにご協力ください。
 長期に活動してくださる方を希望します。活動日は相談のうえ決定。
場 所: 概ね柏原市内 近鉄大阪線沿線
募集対象: 成人、初心者歓迎、特に定年を迎えた男性の方、普通自動車免許所持者
問合せ先: TEL 0729-72-1501 (内線2916)
 FAX 0729-70-2173
 柏原市ボランティアセンター

豊中市社会福祉協議会がホームページを開設

豊中市社会福祉協議会ボランティアセンターが、ホームページを開設しましたので、おこなはくセバントいたさる。
ページ：<http://www.ntt-net.ne.jp/tocvc>

高石市ふれあい健康フロースティバル

乗じこフロースティバルです。障害の有無に問わらず、みなたどり一度のぞむて見てください。

日時／1月14日（土）午前10時～午後4時

場所／高石市「ひまわり」（トーニングセンター）

内容／●講演会「私たちを保つための健康・生きがいづくり」
講師：健康生きがいづくりアドバイザー・管理栄養士
松原紗子さん

●ふれあい「ハサーム」主講：ショネックス（車椅子タクシ）

●ふれあい「ストレッジ」健康チェック・一日保健所・模擬店・ふれあい喫茶・ふわふわドーム・インスタント・ドナーハン

参加費／無料

主催／高石市、高石市社会福祉協議会、大阪府地域福祉推進財団

問い合わせ／高石市社会福祉協議会

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F

TEL 072-205-0010(受付時間)

高石市社協 嘉末バザー

ド家庭に眠つてゐる不要品（新品のみ）のバザーにご参加ください。

日時／1月29日（土）午前10時～午後3時

場所／高石市ふれあいセンター複合センター

ター内婦人文化センター
内容／家庭用品・食器・雑貨などの他の
販売

問い合わせ／高石市社会福祉協議会



大阪ふれあい大会参加者募集

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア入門講座受講生募集

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）

場所／柏原市立柏原東小学校校庭および体育館

主催／柏原ふれあい広場実行委員会、柏原市社会福祉協議会

後援／柏原市

問い合わせ／柏原市社会福祉協議会

TEL 072-209-7220 FAX 072-209-7220

ボランティア活動報知

高石市加茂4-1-1 高石市役所別館2F
TEL 072-205-0010(受付時間)

トーマス「物語の世界へ 人間やかづき」

日時／2月25日（木）午前9時～午後（園大げん）</



◆ピンチヒッター（摂津市） 移送ボランティアで高齢者や障害者の外出を介助

「ボランティア活動で、これまでに受けた恩恵を社会に還元していくのが第二の人生」。そう語るのは、頼もしい移送ボランティアグループ「ピンチヒッター」。「ひまわり号」と「コスマス号」の2台で、SOSがあれば摂津市内のどこへでも駆けつけます。

車いす利用者はタクシーの乗り降りも大勢の介助に頼らざるを得ず、家にこもりがち。移送とは、そんな車いすを利用する高齢者もしくは障害者を、リフト付きの車で目的地まで送り届けるサービスです。

「私は幸い健康に恵まれて定年を迎えることができましたが、障害者施設を訪れ、足の不自由な方の苦労を見るう

つています。

メンバーのもうひとつつの特色は、營繕（住居の修理）もサービスメニューに加えていること。「移送途中で利用者と世間話をするうちに、高齢者世帯では日曜大工的な手助けも必要としていることが分かつたんです」と、同じく浜崎哲次さん。今では水道の水漏れ修理やベンキ塗り、庭木の剪定などを、実費のみで行

ちに、自分ができることはその方たちの手足となつて行動範囲を広げてあげることだと思いついたんです」と語るのは、代表の田渕正明さん。

通院やリハビリの送迎が活動の中心ですが、受診中の待ち時間も含めると、

一回の移送の所要時間は約半日。ひとり平均、週2回活動しているとのことで、2年前のグループ結成以来累計の走行距離は一万kmを越えました。

ピンチヒッター」という名前からも分

かるように、会の趣旨は困ったときの人助け。「デイサービスを受けたくとも、送迎車の空席がなく困っている人に一時的に利用してもらうなど、大勢の人

に幅広くサービスを提供したい」とメンバーの藤山武史さんは語ります。

メンバーや、紅田敏雄さんには忘れられない思い出があります。「痴呆気味のお婆ちゃんをデイサービスにお連れしたときのこと。「おじさん、おじさん」と慕われ、いつしか家族のことや年金の相談まで受けるようになりました。半年たち、摂津市外の老人ホームに移ることが決まった日、お婆ちゃんが目に涙をためて『おじさんが来てくれなければ行かない』と駄々をこね出したんです。このように、ボランティア活動には思いがけない報いがあります。やつていてよかったです」とみじみ思いました」。

「今後は、従来の通院時の移送サービスに加え、お墓参りや買い物、花見など、さまざまな移送の希望をかなえていきたい」とか。高齢者や障害者も、外出する楽しみを味わい、健常者と変わらない生活を営める社会が「ピンチヒッター」の理想。摂津の助つ人シニア4人組は、夢を追いかけて今日も走り続けます。



◆トリオ・ロス・エルマノス（高槻市） 陽気なラテン音楽で障害者や高齢者とふれあい

◆トリオ・ロス・エルマノス（高槻市）

メンバーや、紅田敏雄さんには忘れられない思い出があります。「痴呆気味のお婆ちゃんをデイサービスにお連れしたときのこと。「おじさん、おじさん」と慕われ、いつしか家族のことや年金の相談まで受けるようになりました。半年たち、摂津市外の老人ホームに移することが決まった日、お婆ちゃんが目に涙をためて『おじさんが来てくれなければ行かない』と駄々をこね出したんです。このように、ボランティア活動には思いがけない報いがあります。やつていてよかったです」とみじみ思いました」。

「今後は、従来の通院時の移送サービスに加え、お墓参りや買い物、花見など、さまざまな移送の希望をかなえていきたい」とか。高齢者や障害者も、外出する楽しみを味わい、健常者と変わらない生活を営める社会が「ピンチヒッター」の理想。摂津の助つ人シニア4人組は、夢を追いかけて今日も走り続けます。

メンバーや、紅田敏雄さんには忘れられない思い出があります。「痴呆気味のお婆ちゃんをデイサービスにお連れしたときのこと。「おじさん、おじさん」と慕われ、いつしか家族のことや年金の相談まで受けるようになりました。半年たち、摂津市外の老人ホームに移することが決まった日、お婆ちゃんが目に涙をためて『おじさんが来てくれなければ行かない』と駄々をこね出したんです。このように、ボランティア活動には思いがけない報いがあります。やつていてよかったです」とみじみ思いました」。

「今後は、従来の通院時の移送サービスに加え、お墓参りや買い物、花見など、さまざまな移送の希望をかなえていきたい」とか。高齢者や障害者も、外出する楽しみを味わい、健常者と変わらない生活を営める社会が「ピンチヒッター」の理想。摂津の助つ人シニア4人組は、夢を追いかけて今日も走り続けます。

メンバーや、紅田敏雄さんには忘れられない思い出があります。「痴呆気味のお婆ちゃんをデイサービスにお連れしたときのこと。「おじさん、おじさん」と慕われ、いつしか家族のことや年金の相談まで受けるようになりました。半年たち、摂津市外の老人ホームに移することが決まった日、お婆ちゃんが目に涙をためて『おじさんが来てくれなければ行かない』と駄々をこね出したんです。このように、ボランティア活動には思いがけない報いがあります。やつていてよかったです」とみじみ思いました」。

「今後は、従来の通院時の移送サービスに加え、お墓参りや買い物、花見など、さまざまな移送の希望をかなえていきたい」とか。高齢者や障害者も、外出する楽しみを味わい、健常者と変わらない生活を営める社会が「ピンチヒッター」の理想。摂津の助つ人シニア4人組は、夢を追いかけて今日も走り続けます。



ス（スペイン語で兄弟）と命名し、いらい、ラテン音楽と共に歩んできました」とリーダーの久岡巖さん（64）は語ります。

外谷泰郎さん（63）。「しているんです」とセガントボーカルの

そのような経験から、自分たちの音楽が施設の入居者に元気を与えていていることを実感しています。

「高齢者や障害者の方がラテン音楽に共鳴して、拍子を取つたり、踊り出される。そうして会場の皆さんに広がった音楽のエネルギーが増幅して、今度は我々に返つてくる。この音楽を通じて、たのみやニケーションが楽しくて続いているんです」とセカンドボーカルの

すが、「私たちにはそんな専門知識はありません。けれど演奏し出すと、能面のように無表情だったお年寄りの顔がいきいきと人間らしい表情を取り戻すのを何度も見てきました」と井出さんが、そのような経験から、自分たちの音楽が施設の入居者に元気を与えていていることを実感しています。

て招かれことが多いそうです。リボーカルの井出清一さん（63）によると、「ラテン音楽ってリズムが明るいでしょう。初めて聴くという人でも自然にとけ込めるみたいです」。

は100回にものぼりました。気負わ
ず、自然体で、楽しいから続けてきた
というロス・エルマノスのボランティ
ア活動。「70歳まで続けるのが現在の目
標」と久岡さんは語ります。

多くのふれあいのある人生が豊かな
人生であり、人と喜びを分かち合う術
を知る者こそが人生の達人ならば、ロ
ス・エルマノスはまさにその達人。70
歳までといわず、いつまでも演奏活動
を続けてほしいのです。

大阪教育大附属天王寺中学校技術科では、数年前から技術教育の一環として、中古の車いすを修理して海外へ寄付する活動に取り組んでいます。今までに寄付された車いすは180台以上。フィリピンやベトナム、南アフリカ共和国などで、障害者に役立っています。

技術担当の上田学教諭は「実生活で役立つものづくりと、高齢者や障害者も含めたさまざまな人々から成る実社会とのつながりを考えさせる授業を目標としている」と語ります。

期からは、その結果をインターネット上のホームページ形式に加工する作業を授業で行っています。

調査の際には、点字ブロックや車いす用トイレなど障害者向け設備の有無や、改札に車いすの通れる幅が確保されているか、また券売機からホームまでの動線が車いすの使用者に配慮してあるかなどを点検しておきましょう。

あるが、などの点は注目しました。

駅の夫婦は都心部から郊外まで千差万別です。平均して都心部の大きな駅には、障害者向けの充実した設備が整っているのに對し、郊外の小さな駅はその点が不十分であることがわからました。

ホームページで「障害者アクセスマップ in 関西」を公開

◆大阪教育大附属天王寺中学校3年生（大阪市）



30人利用するのに、車いすの介助をする駅員さんと介助される側にコミュニケーションが少ない』(久保華瑠奈さん)という駅もあれば、逆に、「一日に利用する障害者は平均1人で、特に近代的な設備はないけれども、『連絡してくれたら家まで迎えに行く』と駅員さんが障害者に好意的』(西川有香さん)という駅もありました。

調査を終えて、「立派な施設がなくても、駅員さんの思いやりでカバーできる。人間あつてのバリアフリーではないだろうか」という意見が、白柏魅怜さんを中心多くの中学生から出ました。バリアフリーな社会は、設備だけでなく駅員や乗客などのボランティア精神が伴つてこそ実現されるもの。そして自分たち自身も、バリアフリーな社会を構成し、創造していく一員だということに、中学生たちは気づいたようです。

今後はインターネットの特長を生かし、「同様のホームページとリンクさせて、より強力なデータベースにできたらしい」と菊川富宏君。



マップの制作を通じ、「障害者を見かけたらすぐ手助けできる人間になります」と土井絵美さん、「健常者が障害者の気持ちに少しでも近づくためにボ



小学生やお年寄りに 針金細工を伝授

◆竹内恒治さん (高槻市在住)

見事な手捌きで、針金を使って自動車や三輪車、乳母車やベビーカー、さらには飛行機や人力車をまたたく間に作り上げる竹内恒治さん (高槻市在住・89歳) は、長年、浅草を拠点に活

躍してきた針金細工師です。いまは現役を引退しましたが、キャリアを生かし、地元でボランティアとして活躍しています。

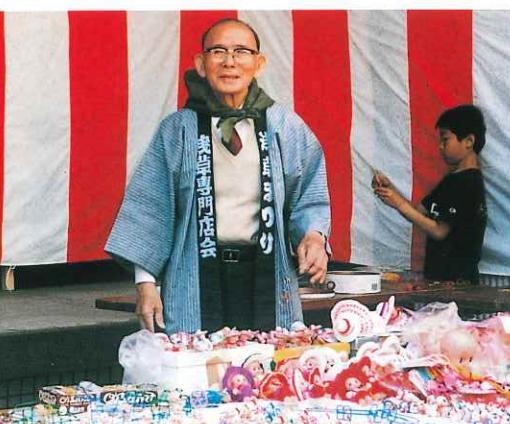
竹内さんの手にかかるば、簡単なものなら約3分、その他のものでも5分もあれば見事な作品が出来上がります。もちろん、そこに至るには何年もの努力と経験が必要なのは言うまでもありません。

「私は日本各地の夜店や縁日で、何十年もこれを売り歩いてきました。そういう、フーテンの寅さんのように」と笑つて語りますが、そもそも、独特の道具を開発し、針金細工を今日のように

一つの工芸技術(工芸作品)として確立させてきたのも竹内さんで、現役時代には多くのテレビ出演もこなしてきました。いまも「江戸趣味手芸保存会」という団体に所属し、請われて地方に赴くこともあります。

「でも、もう私も歳。足を悪くしたのを機に引退し、こうして今はボランティアの真似ごとをさせてもらっている

ランティア活動は大切」(太田翔君)と話す天王寺中学生たち。活動を通して、ボランティアの意味を肌で感じとったようですね。



現在は高槻市で、地元の小学生や老人会のお年寄りにつくり方を教えたり、また地域のボランティア祭りに協力したりといった活動に取り組んでいます。そんな竹内さんは、「本当に貴重なボランティアさんです。いろいろな催しがあるたびに制作をお願いし、すでに1万点以上は皆さんにプレゼントしていただいている。特種技能を持つ、地元には欠かせない貴重な方なんですよ」と、高槻市ボランティア連絡会の矢形律子会長。

「毎日、やつとこを持って5時間は針金をいじつていて。老化防止にも役立つし、何よりも作品をプレゼントしたとき人様に喜んでいただけるのが嬉しい」とも語る竹内さん。このように、お年寄りが長年の経験を活かしてボランティアに取り組む: そんなシニアの素敵な活動が、もっともっと増えてくれば嬉しいですね。



障害を持つ子、持たない子、
広がる交流の輪

◆グループ「いつしょにね!」(岸和田市)

岸和田市で活動するボランティアグループ「いっしょにね！」は、地域で遊ぶ機会の少ない障害を持つ子どもと、障害について知らずに育つ子どもも、その親たちが共に遊び、ふれあう場となっています。毎月第2・第4土曜日、地元の体育館や公民館などを会場に交流会を開催。9月のある日、カメラを持って取材にうかがいました。

この日は、リトミック（音楽、リズムを取り入れた学習）を行う第2土曜日で、赤ちゃんから10歳くらいまでの子どももとその親、18家族ほどが参加。

誕生会から始まり、子どもたちには手づくりのバースデーカードが贈られます。続いては講師の三輪眞子さんが弾く電子ピアノに合わせて、手をたたいたり、輪になつて歩いたり…。楽しく和やかな時間が過ぎていきます。

障害児を持つ親同士、集まつて活動しているグループはたくさんあります
が、そこに健常児とその親たちも参加して交流するグループは、府内でも珍しく、代表の高田美穂さんは、そんな「いっしょにね！」設立の経緯をこう語ります。

「ちに子どものことを知つてもらいたくして井戸端会議みたいに集まつていた。それがだんだん大きくなつて、現在のように何家族もが集まる地域の活動に広がつていつたんです。」

今では、交流会のほかに月一回、「障害児の人権」「子どもの権利条約」などの学習会も開き、今年度策定予定の「犀和田市児童計画」にも意見を出していくなど、活動の幅も広がつてきてます。

「以前なら、町で障害児を見ても、どう接すればいいか分からなかつた。でもここに来るようになつて、気軽に声を掛け

A group of children, including one in a wheelchair, are participating in a basketball activity. One child in a red shirt and blue shorts holds a basketball with the number '55' and the word 'BASKETBALL' printed on it. Another child in a white shirt and plaid shorts sits on a chair, making a peace sign. A woman in a white tank top stands behind them, clapping. The setting appears to be an indoor sports hall.

男性の技術に主婦の知恵をプラスした自助具づくり

◆自助具制作ボランティア・セルフ（四条畷市）

平成8年1月に四條畷市社会福祉協議会が実施した、自助具制作ボランティア講習会の修了生たちが集まり、同年「セルフ」は結成されました。社協の登録ボランティア団体として社協が受けた依頼に基づき、障害者や高齢者

のための自助具を制作しています。活動日は第1木曜と第3火曜の月2回で1時から4時までの3時間。作品は実費程度で提供し、材料費他については月100円の会費と社協からの助成金でまかなっています。

今までに作った作品は15～16種類で、ほとんどがアクリル製。会長の今真知子さん（47）は「木製だと腐つたりカビが生えたりしてとても不衛生。アクリルだと衛生的で、しかも折つたり曲げたりするのにとても便利なんです」と話します。また、年1回開かれる「四條畷みんなの健康と福祉展」にも積極的に参加し、活動内容や作品を紹介。「展覧会で知り合つてメンバーになつた人もいます。私たちの活動をいろんな人たちに知つてもらうためにも、こういった催しがもつと増えてもいいのでは」とも。

を持つ子を産んだことは、けつして母親の責任でもなければ、子ども本人の責任でもない。でも私もそうだったけれど、多くの母親は自分を責めたり、子どもを特別扱いしがちです。当初はこのままでは自分の子どもを隠してしまうのでは…。そんな思いもありました。そこで最初は、近所のお母さんたちに子どものことを知つてもらいたく

るお母さんたち。「まずは気軽にふれあう、そして楽しさを分かち合う。『いっしょにね!』は、そんな肩肘張らない、親と子どもの素敵な交流の場なんです」と第2土曜のプログラムの責任者である、メンバーの大石直子さん。そんな、親と子どもの素敵な交流の輪が、岸和田の町にもつともつと大きく広がっていくのです。



メンバーは会社を定年退職した男性と主婦の約20人で、「男性たちは今までの仕事で、電気や工具、家電の工業デザインなどに携わった人たちが多く、技術面では大助かり。私たち主婦の知恵をプラスすることで、より便利で役立つ作品をめざしています」と今さん。



しかし最近メンバーのなかで問題が浮上。ひとつは自分たちの活動範囲についてです。「最近、段差をなくしたい、扉を取り外してほしいなどの相談を受けることがある。しかし、それが私たちの活動範囲に入るのかという問題が出てきています。できるだけのことはお金のかかるものもあり、ボランティア団体として、どこまでお手伝いできのかというジレンマに悩まされています」と副会長の河江武春さん(71)は話します。そしてもうひとつは、自助具が本当に障害者たちのためになっているのかということ。メンバーのひ

とりは、障害者自身から「自助具はリハビリにならない」といわれたことがあるといいます。「障害者のなかには、健常者の使うものが使えるようになるとだめだと思っている人もいるようです。介護具と自助具の違いを、どこでつけるのかが難しいところなんですよ」とは、会計を担当している上田静江さん(47)。

少しでも障害者や高齢者の負担をなぐそうとやつてきた自助具制作が、本当にその人のためになるのか、そしてどこまでが自助具といえるのか、結成して3年目の「セルフ」にとっていま大きな問題となっています。しかし作品を提供した人から、自分のために他人がここまでやつてくれたことはなかつたと、涙ながらに感謝されたこともあり、「いまはその言葉を支えにがんばっています。これから問題を一つひとつクリアしていくながら、作品を提供した人たちや自助具は不必要だといっている人たちとも、さらにコミュニケーションを図り、自分たちにでき得る限りの活動を続けたい」と今さんは最後に力強く語ってくれました。

一昨年、大阪で開催された全国ボランティアフェスティバル。この一大イベントをきっかけに、大阪府市町村ボランティア連絡会は結成されました。それまで大阪府内では、ボランティアグループが市町村単位で、あるいは活動分野ごとに交流することはあっても、地域と分野を超えて全体が定期的に交流する組織はありませんでした。そこで大阪府ボランティアセンターなどが呼びかけて一昨年7月に同連絡会は発足。現在は、地域と分野を超えた交流会（研修会）の開催や機関誌（OSAKA Vサイン）の発行、またさまざまな催しへの連絡会としての参加など、多彩な活動を展開しています。

「基本的に会員は、個人ではなく市町村のボランティア連絡会で、現在、大阪府内の31の市町村ボランティア連絡会が加盟。ボランティア活動をめぐるさまざまなテーマについての情報交換や研修を通じ、大阪府で活動するグループとして全体的な交流を深めています」と語るのは、代表の矢形律子さん。今回の「第7回おおさかボランティアフェスティバル」においても、連絡会は「福祉マップの交流会」を担当。そして「これを機に、今後は地域を超えていく予定です。



◆ 大阪府市町村ボランティア連絡会 Vグルーブがネットワーキング

◆ 大阪府市町村ボランティア連絡会

えた連絡会ならではの、広域的な福祉マップづくりなどに取り組んでいた「い」とも矢形さん。ボランティア活動のフィールドは、基本的には言うまでもなく、それぞれが住む地域です。しかし21世紀に向か、より多彩に広がっていくボランティアにとつて、地域を超えた普遍的な課題が山積しているのも確かなところ。また活動の分野を超えたテーマもけつして少なくありません。大阪府市町村ボランティア連絡会はこうした課題やテーマに、ネットワークの強みを發揮してさまざまな活動と事業を展開していく予定です。

祝

第7回 おおさかボランティアフェスティバル



株式会社レストラン門

松下電器産業株式会社

ピィポスト

日産労連

株式会社中村塗装店

株式会社竹中工務店 大阪本店

大同生命社会貢献の会

住友海上火災保険株式会社

島本保険事務所

四天王寺福祉事業団

関西シルバーサービス協会

大阪府遊技業協同組合

A-IU保険株式会社

第7回おおさかボランティアフェスティバルの開催にあたり、以上13団体より、ご協賛をいただきました。記してお礼申し上げます。